

ホリスティック企業レポート アクセルスペースホールディングス 402A 東証グロース

新規上場会社フォローアップ・レポート
2026年8月4日発行

一般社団法人 証券リサーチセンター



証券リサーチセンター
審査委員会審査済 20260803

アクセルスペースホールディングス(402A東証グロス)

発行日:2026/8/4

27 年 5 月期は防衛省プロジェクトの売上高増加等で損失額的大幅縮小を見込む
31 年 5 月期末までに衛星コンステレーション 30 機体制を目指す

アナリスト:鎌田 良彦 +81(0)3-6858-3216
レポートについてのお問い合わせはこちら info@stock-r.org

【 402A アクセルスペースホールディングス 業種：輸送用機器 】
株価（8月3日）：467円 時価総額：31,121百万円 発行済株式総数：66,641,000株

決算期	売上高 (百万円)	前期比 (%)	営業利益 (百万円)	前期比 (%)	経常利益 (百万円)	前期比 (%)	純利益 (百万円)	前期比 (%)	EPS (円)	BPS (円)	配当金 (円)
2025/5	1,586	-24.8	-2,495	-	-1,824	-	-1,950	-	-45.0	69.7	0.0
2026/5 実	2,508	58.1	-3,822	-	-3,712	-	-4,057	-	-65.8	104.7	0.0
予	2,500	57.6	-3,800	-	-3,700	-	-4,000	-	-65.0	-	0.0
2027/5 予	9,000	3.6x	-800	-	-150	-	-240	-	-3.6	-	0.0

(注) 1. 連結ベース。純利益は親会社株主に帰属する当期純利益
2. 2026/5期予想は4月14日、2027/5期予想は7月14日の会社予想

> 事業内容

(注 1) 複数の人工衛星を協調して一体的に動作させることで、高度な価値を提供するシステム

◆ 顧客向け小型衛星の開発・製造・運用と自社衛星のデータ販売を展開
アクセルスペースホールディングス(以下、同社)グループは、経営管理等を行う持株会社の同社と、事業子会社であるアクセルスペース、アクセルスペース ディフェンス&インテリジェンスの 3 社で構成されている。同社グループは顧客向けに小型衛星の開発・製造・打ち上げ後の運用を行う Axeler 事業と、自社で保有する光学地球観測衛星コンステレーション^{注 1}により取得した画像データ及び画像データを加工・分析したソリューションを提供する AxelerGlobe 事業を展開している。

26/5 期の売上高構成比は、Axeler 事業が 60.7%、AxelerGlobe 事業が 39.3%であった(図表 1)。

【 図表 1 】 売上内訳

	24/5期		25/5期		26/5期	
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)
Axeler事業	1,719	81.5	1,326	83.6	1,522	60.7
AxelerGlobe事業	391	18.5	260	16.4	986	39.3
合計	2,110	100.0	1,586	100.0	2,508	100.0

(出所)届出目論見書、決算短信を基に証券リサーチセンター作成

◆ Axeler 事業
足元の売上高の太宗は、政府系機関から委託を受けて取り組んでいるプロジェクトからの収益である。

現在の主要プロジェクトは、新エネルギー・産業技術総合開発機構(以下、NEDO)の「経済安全保障重要技術育成プログラム」(以下、Kプログラム)のテーマの一つである「光通信等の衛星コンステレーション基盤技術の開発・実証」であり、22 年度から 31 年度までの 10 年間のプロジェクトである。

同プロジェクトは、光通信衛星を打上げ、大容量・低遅延でのデータ通信・データ処理が可能な衛星光通信ネットワーク技術の開発・実証を目的としている。

AxelLiner 事業の収益としては売上高以外に、営業外収益に計上される補助金収入がある。主な補助金対象プロジェクトは、NEDO の「宇宙産業技術情報基盤整備研究開発事業(超小型衛星の汎用バスの開発・実証支援)」であり、小型衛星の設計の汎用化、製造の効率化、運用の自立化・自動化の実証を目的に、26 年度まで実施の予定である。

衛星は、電源、姿勢制御、通信等の共通に必要な機能と主構造からなる衛星バスと、衛星の目的に応じて搭載されるミッション機器からなる。同社は、過去の衛星の製造経験や上記の補助事業での技術開発の成果等を踏まえ、上記の補助金も活用し、衛星バスを標準化した汎用バスシステムを開発し、衛星開発期間の短縮とコスト削減を目指している。汎用バスは 25 年 6 月に上げた実証衛星「GRUS(グルース)-3α」で検証を行っている。

汎用バスシステムを活用した新たなサービスとして、AxelLiner Laboratory (以下、ALLab)がある。ALLabは、衛星で使用される機器(コンポーネント)の宇宙空間での実証試験を行いたい企業に対して、コンポーネントを同社の衛星に載せて打上げて、軌道上での実証試験の機会を提供するものである。

◆ AxelGlobe 事業

AxelGlobe 事業は、19 年 5 月に開始された事業で、18 年 12 月に上げられた GRUS-1A 機、21 年 3 月に上げられた GRUS-1B、C、D、E の合計 5 機による光学地球観測衛星コンステレーションにより、取得した画像データ及び画像データを加工・分析したソリューションを提供している。26 年 7 月には後継機の GRUS-3A、B、C、D、E、F、G の 7 機が上げられ、今後、運用フェーズに移る予定である。

26 年 7 月 27 日に、GRUS-1E について姿勢制御機能の不具合により商用運転を終了すると発表された。同社は、業績への影響は軽微としている。

GRUS-1 は重量約 100kg の小型光学衛星で、衛星高度 585km の地球低軌道を運行する地上分解能[※]2.5m の中分解能衛星であり、5 機の衛星コンステレーションにより同一地点を 2~3 日に 1 回撮影できる。一方、GRUS-3 は重量約 150kg、地上分解能 2.2m の中分解能衛星であり、7 機の衛星コンステレーションにより同一地点をほぼ同一時刻に毎日撮影が可能となる。

提供する画像は、顧客の要望があった場所を撮影するタスキングが基本と

(注 2)画像データで識別できる地上の最小領域の大きさ

なっている。主な用途としては、農業での作物の生育状況の解析、インフラのモニタリング、環境モニタリング、報道、安全保障、地球軌道上からの他の物体の状況把握、地図の作成等がある。

26 年 2 月には、防衛省から「衛星コンステレーションの整備・運営等事業」(以下、防衛省プロジェクト)を受注した。26 年 2 月から 31 年 3 月までの同社の契約総額は 436 億円で、26 年 4 月から光学衛星画像データの提供を開始した。

> 業績

◆ 26 年 5 月期決算概要

7 月 14 日に公表された 26/5 期決算は、売上高 2,508 百万円(前期比 58.1%増)、営業損失 3,822 百万円(前期は 2,495 百万円の損失)、経常損失 3,712 百万円(同 1,824 百万円の損失)、親会社株主に帰属する当期純損失 4,057 百万円(同 1,950 百万円の損失)であった。4 月 14 日に公表された修正業績予想に沿った業績となった(図表 2)。

25 年 8 月の上場時計画では、AxelLiner 事業の売上高は、K プログラムと AL Labo の民間企業向け売上による増加、AxelGlobe 事業の売上高は、国内外でのサービス利用、防衛省プロジェクトによる増加を見込んでいた。研究開発費は GRUS-3 の 7 機と 28/5 期打上げ予定の高分解能衛星 3 機の開発費用により大幅な増加を見込んでいた。

4 月の修正計画では、AxelLiner 事業の K プログラムの大型部材の納入の期ずれ、AxelGlobe 事業の一部海外案件の組成中止等で売上高が大幅に下方修正された。一方で、履行義務の進捗度に応じて原価比例法で売上高が計上される K プログラムの売上原価減少、販売費及び一般管理費の抑制等により、利益予想はほぼ上場時計画並みとしていた。

26/5 期は、売上高が増加した一方で、営業利益段階では研究開発費が 25/5 期の 1,338 百万円から 26/5 期は 2,673 百万円に増加、人件費や採用費等が増加したこと、経常利益段階では上記に加え、補助金収入が 25/5 期の 735 百万円から 26/5 期は 487 百万円に減少したこと等により損失額は増加した。

AxelLiner 事業の売上高は、上場時の計画からは下方修正されたものの K プログラムの売上高が増加し、1,522 百万円(前期比 14.8%増)となった。経常利益ベースのセグメント利益は、汎用バスシステムの実証衛星である GRUS-3αの打上費用等の研究開発費の増加と NEDO からの補助金減少等により、277 百万円の損失(前期は 119 百万円の利益)となった。

AxelGlobe 事業の売上高は、防衛省プロジェクトが 2 カ月分寄与し、986 百万円(前期比 3.8 倍)と大幅に増加した。セグメント利益は、26 年 7 月に打上

げた GRUS-3 の開発費や、今後打上げを予定する地上分解能 50cm 未満の高分解能衛星の開発費等の研究開発費増加により 1,595 百万円の損失(前期は 942 百万円の損失)となった。

【 図表 2 】 26 年 5 月期実績

	25/5期		26/5期							
	金額 (百万円)	構成比 (%)	実績			26年4月修正計画		25年8月上場時計画		
			金額 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
売上高	1,586	100.0	2,508	100.0	58.1	2,500	100.0	3,646	100.0	
AxelLiner事業	1,326	83.6	1,522	60.7	14.8	1,520	60.8	2,467	67.7	
AxelGlobe事業	260	16.4	986	39.3	3.8x	980	39.2	1,179	32.3	
売上原価	1,479	93.3	1,710	68.2	15.6	1,730	69.2	2,980	81.7	
売上総利益	107	6.7	797	31.8	7.4x	770	30.8	666	18.3	
販売費及び一般管理費	2,602	164.1	4,620	184.2	77.6	4,570	182.8	4,665	127.9	
うち研究開発費	1,338	84.4	2,673	106.6	99.8	n.a.	n.a.	2,505	68.7	
営業利益	-2,495	-	-3,822	-	-	-3,800	-	-3,999	-	
営業外収支	671	-	110	-	-	100	-	123	-	
経常利益	-1,824	-	-3,712	-	-	-3,700	-	-3,876	-	
AxelLiner事業	119	9.0	-277	-	-	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	
AxelGlobe事業	-942	-	-1,595	-	-	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	
調整額	-1,001	-	-1,838	-	-	n.a.	n.a.	n.a.	n.a.	
税引前当期純利益	-1,947	-	-4,050	-	-	-4,038	-	-3,876	-	
親会社株主に帰属する当期純利益	-1,950	-	-4,057	-	-	-4,000	-	-3,879	-	

(注) 1.端数処理の関係で各数値の和が合計と一致しない場合がある
2.セグメント利益の構成比はセグメント利益率
(出所) 決算短信、決算説明資料、「東京証券取引所グロース市場への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」及び業績予想修正リリースを基に証券リサーチセンター作成

26/5 期末の補助金を含む受注残高は、53,375 百万円(前期末比 4.7 倍)となった。AxelLiner 事業の受注残高は、K プログラムを中心とする政府系案件の進捗により 10,313 百万円(同 8.9%減)と減少したが、AxelGlobe 事業の受注残高が防衛省プロジェクトの受注により 43,074 百万円(同 323.9 倍)と大幅に増加した(図表 3)。

【 図表 3 】 主要指標

	25/5期	26/5期	前期比
総収入 (百万円)	2,322	2,995	29.0%
受注残高	11,445	53,375	4.7X
<AxelLiner事業>			
受注残高 (百万円)	11,312	10,301	-8.9%
<AxelGlobe事業>			
受注残高 (百万円)	133	43,074	323.9x
運用衛星機数 (機)	5	5	横ばい

(注) 総収入は、売上高に補助金収入を加えたもの
(出所) 決算短信、決算説明資料を基に証券リサーチセンター作成

◆ 27 年 5 月期会社計画

27/5 期の会社計画は、売上高 9,000 百万円(前期比 3.6 倍)、営業損失 800 百万円(前期は 3,822 百万円の損失)、経常損失 150 百万円(同 3,712 百万円の損失)、親会社株主に帰属する当期純損失 240 百万円(同 4,057 百万円の損失)である(図表 4)。売上高に営業外収益の補助金 1,210 百万円を加えた総収入は 10,210 百万円(前期比 3.4 倍)の計画である。研究開発費はほぼ前期並みを想定しており、防衛省プロジェクトの売上高増加、補助金収入の増加等により、各段階の損失額の大幅な縮小を見込んでいる。

【図表 4】27 年 5 月期会社計画

	26/5期		27/5期会社計画		
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	前期比 (%)
売上高	2,508	100.0	9,000	100.0	3.6x
AxelLiner事業	1,522	60.7	2,920	32.4	91.9
AxelGlobe事業	986	33.8	6,080	67.6	6.2x
営業利益	-3,822	-	-800	-	-
営業外収支	110	-	650	-	-
経常利益	-3,712	-	-150	-	-
AxelLiner事業	-277	-	-770	-	-
AxelGlobe事業	-1,595	-	3,400	55.9	-
調整額	-1,838	-	-2,780	-	-
親会社株主に帰属する当期純利益	-4,057	-	-240	-	-

(注) 1.端数処理の関係で各数値の和が合計と一致しない場合がある
2.セグメント利益の構成比はセグメント利益率
(出所) 決算短信、決算説明資料を基に証券リサーチセンター作成

AxelLiner 事業の売上高は 2,920 百万円(前期比 91.9%増)の計画である。NEDO の K プログラムと、AL Lab 利用契約を締結したコンポーネントメーカーの Pale Blue(千葉県柏市)と宇宙航空研究開発機構(以下、JAXA)向けの原価比例法による売上高増加を見込んでいる。

セグメント損失は 770 百万円(前期は 277 百万円の損失)を見込んでいる。JAXA の宇宙戦略基金「次世代地球観測衛星に向けた観測機能高度化技術」のプロジェクト受託に伴う研究開発費が先行すること、補助金収入の減少等が損失拡大の要因である。

AxelGlobe 事業の売上高は、6,080 百万円(前期比 6.2 倍)の計画である。防衛省プロジェクトの通期寄与を見込んでいる。7 機の GRUS-3 の打上げを受けて、画像・サービス購入の意向表明書を国内外 30 社以上から受けており、これら企業を中心に営業活動を進める考えである。

セグメント利益は 3,400 百万円(前期は 1,595 百万円の損失)の計画である。

防衛省プロジェクトの売上増加に伴う利益と補助金収入が、28/5 期以降の
 打上げを予定する高分解能衛星の研究開発費を吸収すると見込んでいる。

補助金収入は、NEDO の「超小型衛星の汎用バスの開発・実証支援」に関
 するもので、26 年 3 月の組織再編に伴い、自社商用衛星のバス部分の開
 発を AxelLiner 事業から AxelGlobe 事業に移管したため、上記の補助金も
 従来の AxelLiner 事業に替わり AxelGlobe 事業で計上することとなった。
 27/5 期の補助金収入 1,210 百万円は、ほぼ AxelGlobe 事業に計上される
 見込みである。

25 年 8 月の新規上場時に調達した資金について、26 年 7 月に打上げた
 GRUS-3 の 7 機の製造・打上げ費用、今後打上げ予定の高分解能衛星の
 研究開発費と製造・打上げ費用に主に充当するとの計画に変更はない(図
 表 5)。

【図表 5】新規上場時調達資金の使途

(単位：百万円)

	26/5期	27/5期	28/5期	合計
子会社投融資資金	3,716	1,968	2,216	7,900
衛星の材料費・経費、打上げ費	2,276	1,482	1,896	5,654
人員強化とマーケティング費用	78	84	-	162
研究開発資金	1,362	402	320	2,084
同社運転資金	10	10	-	20
採用費等	10	10	-	20
合計	3,726	1,978	2,216	7,920

(出所)訂正届出目論見書を基に証券リサーチセンター作成

> 成長戦略

◆ 31 年 5 月期末の衛星コンステレーション 30 機体制を目指す

同社は 5 年後の 31/5 期に目指す姿として、①31/5 期末までに衛星コンステ
 レーションを 30 機体制に拡大、②30/5 期までに軌道上実証サービスの年 4
 回の定期便化を実現、③5 年間で合計 40 機以上の製造を実施できる体制
 の整備、④衛星自体の性能向上及び新たなミッションにおける技術開発、
 の 4 点を挙げている。

AxelGlobe 事業の衛星コンステレーションでは、高分解能衛星を 28/5 期に
 3 機、29/5 期に 2 機を打上げ、その後、31/5 期までに 18 機を打上げ、31/5
 期末には 30 機体制とする計画である(図表 6)。30 機の内訳は、中分解能
 機と高分解能機はほぼ半々を目途としている。

【図表 6】衛星コンステレーション計画

	衛星名	機数	打上げ時期	商用運用開始	2026年 5月期	2027年 5月期	2028年 5月期	2029年 5月期	2030年 5月期	2031年 5月期
中分解能	GRUS-1 (A)	1機	2018年12月	2019年1月	運用					
	GRUS-1 (BCDE)	4機	2021年3月	2021年6月	運用					
	GRUS-3 (ABCDEFG)	7機	2026年7月	2026年中		運用				
高分解能	高分解能衛星	3機	2028年5月期	未定			運用			
	高分解能衛星	2機	2029年5月期	未定				運用		
	中・高分解能衛星	18機	未定	未定					運用	

(出所)決算説明資料

AxelLiner 事業の AL Lab による軌道上実証サービスについては、従来の案件受注後に衛星の製造と打上げスロットの手配を行う方式から、定期的に打上げスロットを確保してから衛星の製造を行う定期便化により、顧客に対して実証サービスをタイムリーに、相乗りによる割安な価格で提供することを目指している。

> 経営課題/リスク

◆ 投資に際しての留意点

同社が新規上場した際に、証券リサーチセンターでは、①衛星の開発の遅延や故障、打上げの失敗等、②政府系機関顧客への依存、③有利子負債依存度と財務制限条項、④ベンチャーキャピタル等の株式保有比率の高さを投資に際しての留意点として挙げた。

①については、28/5 期及び 29/5 期に打上げ予定の高分解能衛星の開発と製造・打上が計画通りに進むかが、既に受注済みの案件や今後の案件獲得を進める上で重要となると見られ、引き続き留意が必要であろう。

②については、26/5 期の AxelLiner 事業売上高の 86%、AxelGlobe 事業売上高の 88%を政府系機関が占め、政府系機関顧客への依存度は依然として高い。今後は、AxelLiner 事業の AL Lab 及び AxelGlobe 事業の 7 機の GRUS-3 打上げによってどの程度の民間案件開拓が進むかを注視する必要がある。

③については、26/5 期末の有利子負債残高は 5,269 百万円となり、有利子負債依存度は 36%と前期末の水準から改善した。新規上場時の資金調達により現預金の水準が高まり、一部の銀行からの借入の財務制限条項が緩和されたこと等もあり、財務制限条項に抵触するリスクは低下したと見られる。

本レポートでは、株式会社アクセルスペースホールディングスの25年8月の新規上場後の業績動向および成長戦略の進捗状況を中心にアップデートしております。同社の事業概要や市場環境などの基礎情報につきましては、併せて発行済みの下記レポートをご参照ください。

「新規上場会社紹介レポート アクセルスペースホールディングス(402A 東証グロース)」
(2025年8月15日発行)

[アクセルスペースホールディングス\(402A\)のアナリストレポート\(IR、株、IPO\) | 証券リサーチセンター](#)

【図表7】財務諸表

損益計算書	2024/5		2025/5		2026/5	
	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)
売上高	2,110	100.0	1,586	100.0	2,508	100.0
売上原価	2,380	112.8	1,479	93.3	1,710	68.2
売上総利益	-269	-	107	6.7	797	31.8
販売費及び一般管理費	2,268	107.5	2,602	164.1	4,620	184.2
営業利益	-2,538	-	-2,495	-	-3,822	-
営業外収益	68	-	844	-	514	-
営業外費用	39	-	173	-	403	-
経常利益	-2,509	-	-1,824	-	-3,712	-
税引前当期純利益	-3,159	-	-1,947	-	-4,050	-
親会社株主に帰属する当期純利益	-3,174	-	-1,950	-	-4,057	-

貸借対照表	2024/5		2025/5		2026/5	
	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)	(百万円)	(%)
流動資産	7,316	99.5	9,396	98.7	11,025	75.5
現金及び預金	5,142	69.9	5,006	52.6	5,815	39.8
売上債権	291	4.0	28	0.3	1,079	7.4
棚卸資産	182	2.5	903	9.5	461	3.2
固定資産	37	0.5	126	1.3	3,583	24.5
有形固定資産	-	-	-	-	3,364	23.0
無形固定資産	-	-	-	-	17	0.1
投資その他の資産	37	0.5	126	1.3	202	1.4
総資産	7,353	100.0	9,523	100.0	14,609	100.0
流動負債	1,826	24.8	1,545	16.2	4,353	29.8
買入債務	239	3.3	204	2.1	569	3.9
短期借入金	338	4.6	166	1.7	-	-
1年内返済予定の長期借入金	-	-	222	2.3	2,007	13.7
固定負債	550	7.5	4,949	52.0	3,262	22.3
長期借入金	550	7.5	4,949	52.0	3,262	22.3
純資産	4,976	67.7	3,027	31.8	6,993	47.9
自己資本	4,976	67.7	3,025	31.8	6,974	47.7

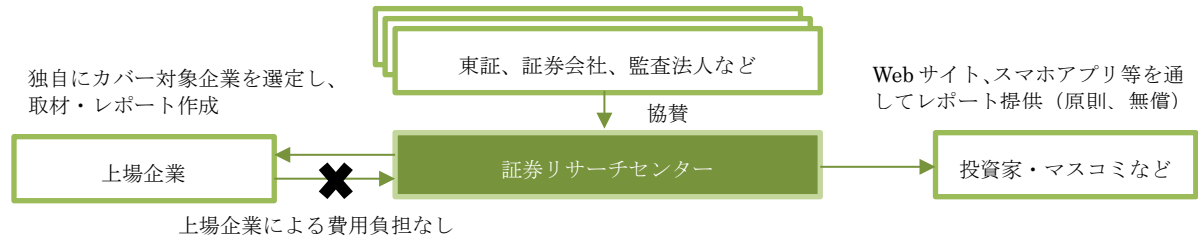
キャッシュ・フロー計算書	2024/5	2025/5	2026/5
	(百万円)	(百万円)	(百万円)
営業キャッシュ・フロー	-2,579	-4,329	-5,123
減価償却費	355	-	6
投資キャッシュ・フロー	-980	-188	-2,117
財務キャッシュ・フロー	6,434	4,391	7,834
配当金の支払額	-	-	-
現金及び現金同等物の増減額	2,887	-135	608
現金及び現金同等物の期末残高	4,242	4,106	4,715

(出所)届出目論見書、決算短信を基に証券リサーチセンター作成

証券リサーチセンターについて

証券リサーチセンターは、株式市場の活性化に向けて、中立的な立場から、アナリスト・カバーが不十分な企業を中心にアナリスト・レポートを作成し、広く一般にレポートを公開する活動を展開しております。

※当センターのレポートは経済産業省の「価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス」を参照しています。



■協賛会員

株式会社東京証券取引所	S M B C 日興証券株式会社	大和証券株式会社	野村證券株式会社
みずほ証券株式会社	EY 新日本有限責任監査法人	有限責任あずさ監査法人	株式会社 I C M G
太陽有限責任監査法人	有限責任監査法人トーマツ	株式会社 S B I 証券	三優監査法人
PwC Japan 有限責任監査法人	いちよし証券株式会社	監査法人 A&A パートナーズ	仰星監査法人
宝印刷株式会社	株式会社プロネクス		
日本証券業協会	公益社団法人日本証券アナリスト協会		

■後援

株式会社名古屋証券取引所	証券会員制法人札幌証券取引所	証券会員制法人福岡証券取引所
一般社団法人日本ベンチャーキャピタル協会	一般社団法人日本 IR 協議会	
一般社団法人スチュワードシップ研究会	一般社団法人機関投資家協働対話フォーラム	

アナリストによる証明

本レポートに記載されたアナリストは、本レポートに記載された内容が、ここで議論された全ての証券や発行企業に対するアナリスト個人の見解を正確に反映していることを表明します。また本レポートの執筆にあたり、アナリストの報酬が、直接的あるいは間接的にこのレポートで示した見解によって、現在、過去、未来にわたって一切の影響を受けないことを保証いたします。

免責事項

- 本レポートは、一般社団法人 証券リサーチセンターに所属する証券アナリストが、広く投資家に株式投資の参考情報として閲覧されることを目的として作成したものであり、特定の証券又は金融商品の売買の推奨、勧誘を目的としたものではありません。
- 本レポートの内容・記述は、一般に入手可能な公開情報に基づき、アナリストの取材により必要な補充を加え作成されたものです。本レポートの作成者は、インサイダー情報の使用はもとより、当該情報を入手することも禁じられています。本レポートに含まれる情報は、正確かつ信頼できると考えられていますが、その正確性が客観的に検証されているものではありません。また、本レポートは投資家が必要とする全ての情報を含むことを意図したものではありません。
- 本レポートに含まれる情報は、金融市場や経済環境の変化等のために、最新のものではなくなる可能性があります。本レポート内で直接又は間接的に取り上げられている株式は、株価の変動や発行体の経営・財務状況の変化、金利・為替の変動等の要因により、投資元本を割り込むリスクがあります。過去のパフォーマンスは将来のパフォーマンスを示唆し、または保証するものではありません。
- 本レポート内で示す見解は予告なしに変更されることがあり、一般社団法人 証券リサーチセンターは、本レポート内に含まれる情報及び見解を更新する義務を負うものではありません。
- 一般社団法人 証券リサーチセンターは、投資家が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても一切責任を負いません。最終投資判断は投資家個人においてなされなければならない、投資に対する一切の責任は閲覧した投資家にあります。
- 本レポートの著作権は一般社団法人 証券リサーチセンターに帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。